

ヨーロッパ最大の日本祭り 「デュッセルドルフ日本デー」

ヨーロッパ最大の日本文化交流イベント

デュッセルドルフで2002年から毎年開催されているドイツと日本の交流文化イベント「デュッセルドルフ日本デー」。今年は5月25日（土）、晴天のライン川沿いには日本食や伝統工芸品の販売や、着付け体験、相撲など日本スポーツの紹介、観光情報案内など沢山のブースが立ち並び、実に60万人以上の人で大いに賑わいました。

【今年で18回目を迎えたデュッセルドルフ日本デー】



デュッセルドルフ市の人口は約61万人ですから、この「デュッセルドルフ日本デー」を楽しみに、市内だけでなくヨーロッパ各地から訪れます。

【ヨーロッパ中からコスプレイヤーが集まります】



ライン川河畔の日本の首都

デュッセルドルフは、ライン川河畔に位置し、ライン・ルール大都市圏地域の中心でルール工業地帯のすぐ南西部に位置し、1950年代より多くの日本企業が進出している地域です。

デュッセルドルフ市の熱心な企業誘致策もあり、進出する日本企業が徐々に増え、1964年に日本クラブ、1966年に日本商工会議所、1973年に日本人学校と日本人社会にとつての基礎的インフラが整備されました。デュッセルドルフ日本商工会議所の会員企業数は600社超、ヨーロッパでは最大の会員企業を抱える日本商工会議所です。

デュッセルドルフに住む日本人は約7,600人（2018年海外在留邦人数調査統計）、ロンドン・パリに次ぎ、ヨーロッパで3番目に日本人が多く住んでおり、「ライン川河畔の日本の首都」とも呼ばれています。

デュッセルドルフ中央駅からほど近いインマーマン通り周辺には日本食レストランや日本食材店、日本書店が立ち並び、「リトル・トーキョー」と呼ばれています。デュッセルドルフは、ヨーロッパ最大級の日本人コミュニティがある街としても知られています。

【日本食店などが立ち並ぶインマーマン通り】



デュッセルドルフ市と千葉県との姉妹提携

今回の「デュッセルドルフ日本デー」に合わせ、デュッセルドルフ市と千葉県が姉妹提携の合意文書に署名しました。千葉県からは森田健作知事がデュッセルドルフを訪れました。

【デュッセルドルフ日本デーでスピーチする森田千葉県知事】



2004年のデュッセルドルフ市長の千葉県訪問をきっかけに、国際空港や国際展示場を有するなど千葉県との共通点が多いことから、2005年に交流が始まりました。

以来、13年間にわたり、経済や学術に加え、オーケストラの相互公演、卓球・テニス・サッカーなど多くの分野で青少年をはじめとする県民主体の交流を活発に続けています。また、「デュッセルドルフ日本デー」には毎年出展し、千葉県の魅力を発信しています。

【今回の「デュッセルドルフ日本デー」でも千葉県の魅力を発信】



自治体の国際交流と地方創生

「デュッセルドルフ日本デー」では、ドイツ・フランクフルト市とパートナー都市協定を締結している横浜市もブース出展し、横浜の魅力を発信しました。当日は用意したパンフレットがすべてなくなる盛況振りで、横浜への関心の高さが伺えました。

【多くの人々で賑わう横浜観光ブース】



日本とドイツの自治体の姉妹(友好)都市提携数は53団体あり(2017年1月現在、自治体国際化協会)、文化、スポーツなどさまざまな分野で自治体同士の交流がおこなわれています。

このような自治体交流は、異文化の理解を一層推進するとともに、その過程において自らの地域のアイデンティティを明確にし、さらに魅力ある地域づくりの手助けともなるのではないのでしょうか。

以上

本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。

本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。

本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。